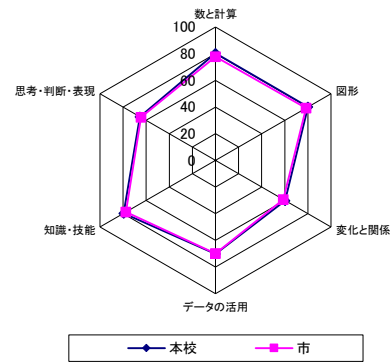


宇都宮市立姿川第二小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	80.4	77.7	78.6
	図形	80.1	78.4	74.4
	変化と関係	60.3	58.7	53.0
	データの活用	70.2	69.9	57.2
観点別	知識・技能	79.5	77.5	74.0
	思考・判断・表現	65.4	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

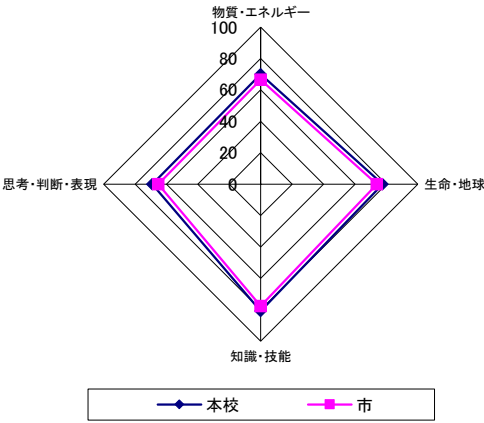
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より2.7ポイント上回った。 ○基本的な計算能力は身に付いており、ほぼ90%以上の正答率となっている。 ○図の構造を理解した上で、小数の乗法を立式する問題では、市の平均を4.8ポイント上回る92%と高い正答率だった。 ●基準量が分数になっている分数倍の比較量を求める問題では、比較量と基準量の理解が不十分で、市の平均を6ポイント下回る56%と低い正答率だった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算能力は身に付いているので、より速く・正確に解くことができるように引き続き計算練習を続けていくことで定着を図る。 ・分数倍の問題では、まずは整数で同じような問題を取り扱っていくことで、比較量と基準量について理解できるようにする。特に問題文と図を関連付けながら提示していくことで、扱う数が分数になっても同じ考え方を使えるということに気付かせていけるよう指導方法を工夫していく。
図形	平均正答率は、市の平均より1.7ポイント上回った。 ○円の面積を求める公式を活用した問題について正答率は96%で、市の平均を5.3ポイント上回った。 ○三角柱の展開図を組み立てたときに重なる頂点を答える問題の正答率は93%で、折った紙を切った後に開いてできる模様について答える問題の正答率は90%である。問題文や展開図から立体をイメージする能力が育ってきている。 ●ひし形の面積を求める公式の活用については、市の平均を1.2ポイント上回っているものの、正答率は77%である。三角柱の体積を求める公式の活用についての正答率は79%で、市の平均を2.3ポイント下回っている。三角形の内角や外角を扱った問題の正答率は67%で、四角形の内角の和の求め方を説明する問題の正答率は41%であったことから、円以外の面積の公式については定着が不十分だと考えられる。考え方を説明する問題への取組にも課題が残る。	・様々な図形の面積や体積を求める問題に触れる機会を増やしていくことで、公式の定着を図る。また、公式を学ぶ際にも、どうしてこの公式で面積や体積を求めることができるのか、視覚的に教具を用いて示したり、理由を話合わせる活動を取り入れたりするなど、公式の有用性や使い方についての児童の理解を深めていけるようにする。新しい公式を学ぶ際にも、既習内容と関連付けながら指導することで、問題解決能力を身に付けていけるようにする。 ・考え方を説明する問題への取組については、最初から全て考えさせるのではなく、段階を踏んで少しずつ証明していく方法で指導することで定着を図っていく。児童の習熟に合わせて、穴埋めのワークシートやヒントカードなどを活用することで、説明を記述する問題にも取り組むことができるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より1.6ポイント上回った。 ○速さの単位の関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題は、市の平均を7.7ポイント上回った。 ●表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるかを考察する問題では、市の平均を8.9ポイント下回り、正答率も46%と低かった。	・混み具合を求める問題では、表の読み取りが不十分なことと、割合の計算ミスが誤答の原因だと考えられる。そのため、まずは混み具合を図に表して視覚的に読み取りやすくしたり、実際に児童を立たせて混み具合を経験させてみたりすることで、まずは感覚的に理解させていきたい。更に計算を用いて一人あたりの面積であったり、1㎡あたりの人数であったりと、割合とは何を求めているのかについての理解が深まるような指導方法を工夫していく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より0.3ポイント上回った。 ○表から平均を求める問題では正答率は87%で、市の平均を1.2ポイント上回った。 ○ドットプロットから数値を読み取り、度数分布表を作成させる問題の正答率は82%で、市の平均を4.7ポイント上回っている。低学年から表の読み取りやグラフの作成を丁寧に指導してきた成果と考えられる。 ●最頻値や中央値を求める問題の正答率は70%で、市の平均を0.9ポイント下回った。また、ヒストグラムの特徴を元に説明する問題の正答率は44%で、市の平均を0.6%下回っていて、ドットプロットやヒストグラムについての理解が不十分だと考えられる。	・平均を求める方法については理解していても、活用に課題が残るので、様々な方法で活用できる機会を増やしていく。ドットプロットやヒストグラムが何を表しているのか、どのような良さがあるのか理解できるようにするために、学級でアンケートを取って実際に表し、分析することでどのようなことが分かるのか体験させるような活動を取り入れていく。身近な話題を扱っていくことで、児童は意欲的に取り組み、ドットプロットやヒストグラムで表す良さについて更に理解を深めていくようにする。

宇都宮市立姿川第二小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.0	66.5	66.3
	生命・地球	77.6	74.0	72.6
観点別	知識・技能	80.8	77.6	78.2
	思考・判断・表現	69.1	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

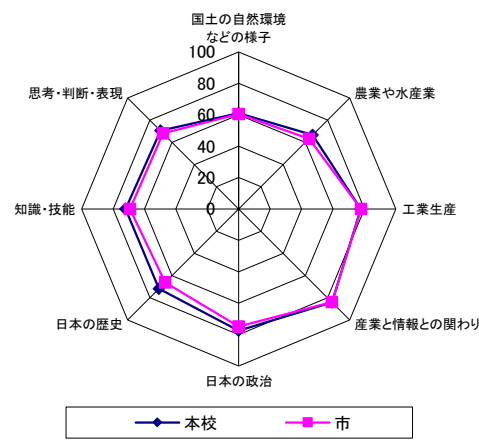
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を3.5ポイント上回っている。 ○ふりこのきまりについては、正答率が市の平均を上回っている。 ○電流のはたらきについては、正答率が市の平均を上回っており、おおむね理解できている。 ○物が燃えた時の缶の中の各気体の割合の変化については、正答率が90%を超えており、よく理解できている。 ●未知の水溶液を特定する実験の方法を計画する問題では、水溶液の性質の理解が不十分であり、正答率が30%となっており、市の平均を下回っている。	・実験を行う際には、課題意識を持たせ、仮説を検証するための実験方法を児童に考えさせる機会をより多く取り入れる。 ・児童が観察や実験の結果を考察したり、表現したりする活動を多く取り入れることで、科学的事象を正しく捉え、自分なりの言葉で説明することができるようにする。 ・水溶液の性質については、酸性、中性、アルカリ性によって、リトマス紙がどのように変化するかを復習し、定着を図ることができるようにする。また、身の回りの水溶液にも目を向けさせることで、日常生活との関連を図ることができるようにする。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を3.6ポイント上回っている。 ○「月と太陽」では、市の平均を約10ポイント上回っている。月と太陽の位置関係から月の見え方を考えることについてよく理解ができている。 ●「天気の変化」では、台風とダムの関係について記述で回答する活用問題が市の平均を2.3ポイント下回っていた。 ●「植物のつくりとはたらき」では、実験の説明を読み取り、対照実験の目的を考える問題が市の平均正答率を1.2ポイント下回っていた。	・「月と太陽」では、月と太陽の位置関係から月の形がどのように見えるのかを様々な模型や実験道具を活用して、一人一人が体験できるような授業を行ったことで理解がよくできていたと考えられるので、次年度以降も継続していく。 ・生命、地球の学習では、学習内容と身近な出来事や日常生活と結びつけて考え、理解を深められるようにする。 ・実験を行う際には、何を確かめるためにどのような実験を行うのかを考える時間を取ることで対照実験の意味についての理解が深められるようにする。

宇都宮市立姿川第二小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.0	60.5	65.8
	農業や水産業	66.7	63.3	66.0
	工業生産	77.7	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	84.0	83.8	76.6
	日本の政治	77.5	74.9	74.1
観点別	日本の歴史	71.8	66.3	68.3
	知識・技能	72.1	69.3	71.4
	思考・判断・表現	70.4	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

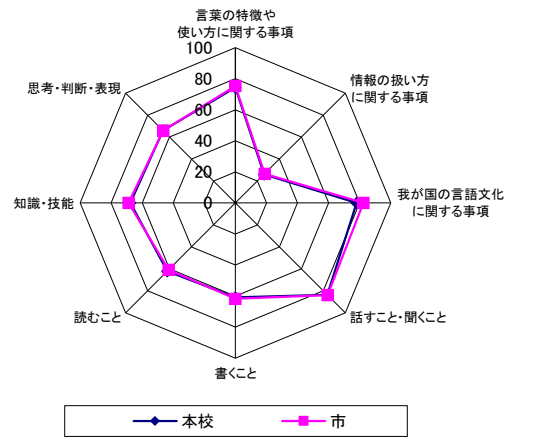
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均を0.5ポイント上回っている。 ○日本の海岸線の長さについては、市の正答率を2ポイント上回っている。 ○林業で働く人々が行う「間伐」作業については、市の平均を5.3ポイント上回っている。 ●太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取りについては、市の平均を2.4ポイント下回っている。	・世界の中における我が国の国土の位置や構成、領土の範囲について、地図帳や地球儀、各種資料などを活用したり、白地図やワークシートなどにまとめたりする活動を通して理解を深めさせる。 ・日本の自然環境の特色と国民生活との関連を考えさせるため、日本の気候について、気候や降水量などの資料などに関連付け、分かったことを調べまとめる活動を取り入れる。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を3.4ポイント上回っている。 ○米の品質を高めるための工夫については、正答率が94%で、市の正答率を7.6ポイント上回っている。 ○食料輸入量の増加については、市の平均を上回っている。 ●日本の食料自給率に関する理解については、市の平均とほぼ同じであるが、全国の平均を大きく下回っており、課題がある。	・日本の食料自給率について、資料を読み取り、話し合う活動を取り入れることで、日本の食料自給率の特徴を考え、理解を深められるようにする。 ・地図帳や地球儀を用いて、国内の主な生産地や輸入相手国の位置、主な漁港や漁場の位置などを調べ、白地図などにまとめたり、統計、写真などの資料やコンピュータなどを使って、食料生産について図表などにまとめたりする活動を取り入れ、理解を深められるようにする。
工業生産	平均正答率は、市の平均を0.2ポイント下回っている。 ○日本の工業生産に関する自動車製造工程については、市の平均を0.8ポイント上回っている。 ○自動車の部品の再利用については、市の平均を2.1ポイント上回っている。 ●日本の主な輸出品・輸入品については、市の平均を3.5ポイント下回っている。	・日本の工業生産に関する工業の種類、製造工程、交通網の広がり、貿易や運輸の様子などに関して、地図帳やインターネットなどの各種資料で調べ、まとめる活動を取り入れる。その際、資料から分かることを自分の言葉で表現したり、話し合ったりする活動を行うことで、広い視野で資料を読み取る力を身に付けられるよう、指導をしていく。 ・貿易や運輸、輸出入について、交通網の広がりや外国との関わりに着目させながら、理解を深めさせていく。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均を0.2ポイント上回っている。 ○情報の扱い方については、正答率が96%で、市の平均を3.1ポイント上回っており、十分理解できている。 ●産業における情報の活用については、正答率は72%で、市の平均を2.8ポイント下回っており、各産業と情報の関連についての理解に課題がある。	・各産業においてどのような情報が活用されているかの知識を得るだけでなく、その情報が産業にとってどのような意味があるのか、どのような役割を担っているのかなど、情報と産業との関連について考察していく活動を取り入れていく。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を2.6ポイント上回っている。 ○日本国憲法の平和主義、基本的人権の尊重については、正答率が96%、82%、市の平均を2.4ポイント、0.7ポイント上回っている。 ●議会政治の仕組みについては、市の平均は上回っているものの、55%であることから、理解に課題がある。	・知識を得るだけでなく、学んだ知識を自分の言葉で表現する活動を取り入れていく。 ・日本国憲法や政治の仕組みについて、その内容を理解するだけでなく、そうになっている意味や国民生活との関連などを考え、表現する活動を取り入れていく。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を5.5ポイント上回っている。 ○多くの時代について正答率が市の平均を3.4ポイントから13.4ポイント上回っており、十分理解できている。 ●飛鳥時代から平安時代の文化についての問いの正答率は市の平均を2.9ポイント下回っており、文化の歴史についての理解に課題がある。	・各時代の文化についての資料を工夫し、写真資料や映像資料など、子供が文化に関心を持ち、印象が深くなる資料を提示する。 ・各時代の文化について、象徴する人物や物の知識を得るだけでなく、その文化が持つ特徴を考えたり、他の時代の文化と比較したりする活動を取り入れていく。

宇都宮市立姿川第二小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.4	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	26.0	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	78.0	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	83.7	83.9	84.2
	書くこと	60.8	61.7	64.5
	読むこと	62.2	60.9	61.0
観点別	知識・技能	67.7	68.8	70.3
	思考・判断・表現	65.9	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を0.9ポイント下回っている。 ○第6学年で学習した漢字の読みは、正答率が高く、市の正答率を上回っている。 ○三字の熟語の成り立ちについても、正答率が90%を上回っており、よく理解できている。 ●第5学年で学習した漢字の書きは、市の平均を下回っている。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題では、市の平均を6.5ポイント下回っている。文の構成を考えたり、自由記述したりすることに課題が見られた。	・普段から漢字を書く活動を取り入れ、漢字を書くことに慣れさせる。学習した漢字の定着を図るために、小テストや漢字オリンピックを実施し、意欲的に取り組むことができるようにする。 ・文章構成と段落には深いつながりがあることを理解させる。また、書きたいことを箇条書きし、順序や構成を考えてから文章を組み立てていくという活動を取り入れていく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を0.5ポイント下回っている。 ○集めた資料をもとに、目的に応じて文章を書く問題では、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ●説明文を読み取り、情報と情報との関係について理解し、整理する問題では、正答率が20%を下回っている。	・短時間で文章の趣旨を読み取る力をつけるために、引き続き読書を推奨するとともに、新聞を読む活動も工夫して取り入れていく。 ・条件の付いた文章を書くために、目的に応じた文章を整理して書く活動を取り入れる。新聞やインターネットなどの資料を使って、必要な情報を読み取り、自分の言葉でまとめる活動を積極的に取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均を4.4ポイント下回っている。 ●和語、漢語、外来語について答える問題では、正答率が市の平均を下回った。和語、漢語の理解について課題が見られる。	・和語と漢語の定義を押さえながら、興味や関心を持たせ定着を図る。 ・国語辞典や漢字辞典を活用し、多くの言葉についての理解を深めたり、朝の学習の時間や家庭学習などを利用して、和語、漢語、外来語について学習する時間を設ける。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を0.2ポイント下回っている。 ○自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることができる。 ●意図に応じて質問を工夫することに關しては、市の平均を4ポイント下回っている。話し方の工夫を考えることに課題が見られる。	・話し合い活動において、自分の考えを話すとともに、友達の発表の要点を意識して聞けるように指導していく。 ・教科や総合的な学習の時間でのインタビュー活動など、目的に合わせた質問ができるような機会を設け、定着を図っていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を0.9ポイント下回っている。 ○報告文を書く項目では、必要な情報を読み取り、情報と情報との関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に書くことは、市の平均を2.2ポイント上回っている。 ●「指定された長さで文章を書くこと」は市の平均とほぼ変わらないが、「2段落構成で文章を書くこと」は市の平均を2.8ポイント下回っている。自分の意見とその理由を明確にして書くことに課題が見られる。	・文章を箇条書きで要約し、順序や構成を確認してから文章に組み立てる活動を通して、必要な情報を取捨選択しながら文章が書けるように指導していく。 ・授業や家庭学習の中で、テーマや文章構成・字数等を設定した課題を設け、継続的に行うことで書く力の習熟を図っていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を1.3ポイント上回っている。 ○「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている」では、市の平均を10.2ポイント上回った。説明文について「叙述を基に文章の内容を捉えている」では、市の平均を4.8ポイント上回った。 ●「登場人物の心情について描写的に捉えている」では、市の平均を7.2ポイント下回っている。登場人物の心情を読み取ることに課題が見られる。	・登場人物の心情を読み取るために、引き続き読書活動に力を入れ、読み取った後の感想や意見等を文章で表す表現活動を行う。また、類似の問題にも取り組ませ、問題に慣れさせるようにする。 ・説明文において、叙述を基に文章の内容を捉えている力を更に高めるため、物語文とともに説明文でも複数段落から考察させる授業展開を多く行っていく。